

I 学校の概要

- 1 明治6年(1873年)開校以来、市内中心校として営々と教育活動に取り組んでおり、歴史と伝統を重んじた教育活動を進め、保護者や地域から学校に対する信頼は厚い。
- 2 昭和30年代には児童数が1800名を超える年度があった。市周辺部の住宅団地の造成、東日本大震災の被害等により児童数が年々減少していった。平成27年度に門脇小学校と統合し、本年度の児童数は279名、学級数は13学級となっている。
- 3 国立教育政策研究所より「我が国の伝統文化を尊重する教育に関する実践モデル事業」の研究指定を受け、平成17年度から6年間にわたって実践的な研究を行い、品位ある礼儀作法を現在も大切にして教育活動を行っている。
- 4 本校では「知育(あたまそだて)」「徳育(こころそだて)」「体育(からだそだて)」の三つが調和する教育課程を編成している。また、それらの根本を支えるものとして、「食育(いのちそだて)」を位置付け、平成24年度、優れた「早寝早起き朝ごはん」運動の推進にかかる文部科学大臣表彰を受賞した。また、平成26年度には、これまで取り組んできた「食を大切に作る児童の育成」の成果を、自主公開研究会という形で発表した。

II 児童及び地域の実態

- 1 児童は明るく、話し方がはきはきしており、時と場に応じた言動を取ることができる。挨拶などの礼儀作法や規律ある集団行動が身に付いてきている。
- 2 学区内には裁判所、検察庁などの官公庁が所在している。山の手地区には、市図書館や市総合体育館、県立・市立高等学校、中学校、私立幼稚園などの文教施設があり、教育環境に恵まれている。
また、学校周辺には古くからの商店街があり、立町・中央地区では、道路の拡張工事や復興住宅の建設が進められ、令和2年9月には「新内海橋」、令和4年3月には「石巻かわみなど大橋」が開通した。
- 3 震災で大きな被害のあった門脇地区には、令和3年3月に石巻南浜津波復興記念公園が開園した。
- 4 娯楽施設や飲食店街をかかえる地区では、PTAなどとの連携を基に、児童の安全な遊び場の確保や交通事故の防止などに配慮している。
- 5 児童は、スポーツや音楽活動に熱心で、校内では鼓笛隊に所属(高学年)するとともに、野球・バスケットボール・陸上競技などのスポーツ少年団の活動に取り組んでいる。

III 学校経営の基本方針

- ◇児童と教職員が温かな人間関係の中で、共に学び・成長する学校づくりを目指す。
◇教職員のよさや持ち味を結集し、創意工夫と協働で教育活動を充実させ、児童一人一人を集団の中で更に輝かせる。
◇児童が夢や志、誇りを持てる学校づくりを進めるとともに、保護者や地域住民からの期待に応え、信頼を得る。

1 基本姿勢

- (1) 憲法の精神と教育基本法の理念の下、急激に変化する時代を生き抜く上で必要な確かな学力(知)・豊かな心(徳)・健やかな体(体)の調和のとれた育成を重視するとともに、それを支える食育の推進を図ることにより、生きる力を備えた児童を育てる。
- (2) 「新『温故知新』主義～『温故知新』から『温故創新』へ～」の考えの下に、本校の伝統を受け継ぎ・守るとともに、伝統を磨き・創り・伝えていくことに努力を重ねる。
- (3) 「校訓五箇条」「三つのすすんで運動」「食育・伝統文化教育」を学校経営の柱とする。
- (4) 指導の工夫改善に努め、学びの質の高い特色ある教育活動を展開する。
- (5) 保護者や地域住民と連携し、「地域に根ざし、人と人のかかわりを大切にする学校づくり」を推進する。
- (6) 「教育は人なり」を合言葉に、教職員が切磋琢磨しながら、授業のプロとしての力量と教育的愛情や責任感を持って児童の教育に当たる。

2 校訓五箇条

知・徳・体の調和のとれた児童の育成を目指し、日々人間として成長していくことを願い、本校第11代校長／錦織玄三郎先生が明治39年に制定した「校訓五箇条」を継承し、本校の教育活動の柱とする。

- 一、げんきよくせよ (心身共に健康であること)
- 一、まじめにせよ (勤勉であり、誠実であること)
- 一、ひとりだせよ (自主的・自律的であること)
- 一、よくこらえよ (忍耐強くあること)
- 一、しかとおぼえよ (学業に打ち込むこと)

【「校訓五箇条」に盛られたことばの語源・語義】

「げんき(元気)」

- ・進んで物事をやろうとする気力。
- ・活動のもとになる力がある様子。
- ・体の調子がよいこと。
- ・勇気。

「き(気)」

- ・人間の精神の外に現れるもの。
- ・行動への意欲。物事を成し遂げるために心を支え動かす力。
- ・気概、気鋭、氣勢、気力、根気、覇気。

「まじめ(真面目)」

- ・本気であること。うそや冗談でないこと。偽りがないこと。
- ・真心を込めること。誠実なこと。
- ・何事にも、ひたすら一生懸命に取り組もうとする様子。

「こらえる(堪える)」

- ・苦痛や不満などによって失われそうになる心。身の安定を保とうと努力すること。
- ・がまんすること。こらえること。もちこたえること。
- ・ものに打ち勝って任に当たること。
- ・感情などを表に出さないこと。

「おぼえる(覚える)」

- ・経験したことや習得したことを忘れないものとして、心にとどめること。
- ・体得すること。身に付けること。
- ・迷いを去って、真理を知ること。

3 三つのすすんで運動

「あいさつ・はたらく・あとしまつ」(昭和63年度～)

4 食育・伝統文化教育

「食」を大切にする児童の育成(平成23年度～)

伝統文化を尊重する児童を育てる教育課程の編成(平成17年度～)

5 学校教育目標

よく学び、心身共にしなやかで、たくましい児童の育成を図る

6 目指す学校像

- (1) 児童が楽しく学び、共に認め合い・高め合うことでしなやかな心と健やかな体を育てる学校
- (2) 一人一人の教職員が使命感に燃え、豊かな発想と協働で授業や行事を創造する学校
- (3) 児童や教職員の姿を通して、保護者や地域住民に感動を与え、期待や信頼に応える学校

7 目指す教師像

本校第11代校長／錦織玄三郎先生が明治42年に制定した「当校教員注意要項」より抜粋したもの。

- (1) 教育のために勤めよ。対話的に教えよ。
- (2) 言葉遣いを丁寧にせよ。品格を保て。
- (3) 児童と遊べ。児童に負けるな。

8 目指す児童像

- (1) 明るく、たくましい児童 …………… 一、げんきよくせよ
- (2) 正直で、思いやりのある児童 …………… 一、まじめにせよ
- (3) 自分の意志と力で行動する児童 …………… 一、ひとりでせよ
- (4) 根気強くやり遂げる児童 …………… 一、よくこらえよ
- (5) 自ら学び、深く考える児童 …………… 一、しかとおぼえよ

【校訓五箇条】



【校章】

【低・中・高学年別の目指す児童の具体像】

目指す児童像	低 学 年	中 学 年	高 学 年
☆明るく、たくましい児童	明るく、元気に生活する児童	心身共に健康な児童	心身共にたくましい児童
☆正直で、思いやりのある児童	素直で、友達と仲良くする児童	正直で、みんなと仲良くする児童	誠実で、互いを思いやり、助け合う児童
☆自分の意志と力で行動する児童	自分のことは自分でする児童	めあてを持ち、進んで取り組む児童	見通しをもち、計画的に行動する児童
☆根気強くやり遂げる児童	最後まで頑張る児童	何事にも最後まで努力する児童	目標を達成するまでやり遂げる児童
☆自ら学び、深く考える児童	しっかり聞き、考える児童	進んで学び、深く考える児童	主体的に学び、筋道立てて考える児童

9 本年度の重点努力事項

- (1) 児童一人一人の可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの実現…(知育～あたまそだて～)
- (2) 心を育て、心を耕す教育活動の展開 ……(徳育～こころそだて～)
- (3) 体力及び運動能力向上・健康増進を図る教育活動の継続 ……(体育～からだそだて～)
- (4) 「知育・徳育・体育」の根本を支える「食指導」の推進 ……(食育～いのちそだて～)
- (5) 志教育の推進
- (6) 防災教育の推進
- (7) 教職員の指導力向上と教育プロ集団の醸成
- (8) 保護者や地域住民との連携